

第1学年2組 特別の教科 道徳学習指導案

平成30年9月25日(火) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 劔 仁美

会場 1年2組教室

1 主題名

ともだちのことを おもって? —友情, 信頼—

教材名 「二つのことり」 (光村図書, 学研, 学校図書, 東京書籍, 光文書院)

2 本主題の価値

本主題は、学習指導要領第1学年及び第2学年の内容に準拠して設定したものである。

B 主として人とのかかわりに関すること

【主たる道徳的価値】友情, 信頼

(9) 友達と仲よくし, 助け合うこと。

【関連する道徳的価値】親切, 思いやり 公正, 公平

(6) 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。

(11) 自分の好き嫌いとらわれないで接すること。

小学校に入学した子どもは、一緒に学習をしたり、遊んだりする中で友達ができる。友達とかかわる中で、喧嘩をしたり仲直りをしたりと様々な経験をする。友達とは、互いを信頼し合い、助け合うことのできる関係である。しかし、この時期の子どもは、他者よりも自分本位に考えがちである。友達が困っていることに思いを向けたり、自分の言動が友達にどんな影響を与えるかを考えたりすることができないことが多い。この時期にこそ、友達の困り感に思いを向けることの大切さや自分の言動により友達を元気づけたり、悲しませたりすることにつながることを理解を深めさせたい。

本主題で扱う教材は、次のような内容である。

主人公のみそさざいは、やまがらの家へ行こうか、うぐいすの家に行こうか迷っていた。今日は、やまがらの誕生日。お祝いをするからと誕生会に誘われていた。しかし、今日はうぐいすの家で音楽会の練習もある。

やまがらの家は、山奥の暗くて寂しいところ。うぐいすの家は、きれいな梅の咲く林があるところにある。迷ったみそさざいは、うぐいすの家に行くことにする。しばらくすると、みそさざいはやまがらのことが気になり始める。(やまがらさんは、どうしているだろう)みそさざいは、うぐいすの家を抜け出しやまがらの家に向かう。みそさざいが来てくれたので、やまがらは大喜び。みそさざいは、(来てよかったな)と思った。

本主題では、教材に描かれている主人公みそさざいのやまがらへの思いや、やまがらの家へ行った行動の善し悪しについて、経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりする「見方・考え方」を働かせることができる。そして「友達が困っていることに気付くこと」「困っている友達に対してどのように行動するか」について考えを深めるところに価値がある。

3 本主題で目指す姿

「友情, 信頼」についての道徳的価値の大切さを理解し、よりよい行為を判断する子ども

具体的には、「友情, 信頼」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりするという「見方・考え方」を働かせ、価値の理解を深めるとともに、どのように行動したらよいかを具体的に考え表現し、判断する力という資質・能力を発揮して「お誕生会に行きます。でも、音楽会の練習をする日だから、みんなに言って音楽会の練習は別の日にしようと言います。みんなでお祝いをした方がやまがらさんが喜ぶと思うからです」などと課題を解決する方法(具体的な行動の仕方=行為)を考える姿。

4 本主題で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全1時間

単元カード参照

6 指導の構想

本主題では、再現構成法で教材を提示する。教材をいくつかの場面に分け、場面絵を活用した読み聞かせで提示することで、場面ごとの登場人物の心情を考えさせたり自分の経験を想起させたりして各場面のイメージを膨らませていく手法である。再現構成法での提示により、子どもは集中して教材に描かれている状況を把握したり、自分事として道徳的問題の解決に向かおうとしたりする意識を高めることができる。本主題では、①から④に細分化し、提示する。

子どもは、これまでに「友情, 信頼」についての道徳的価値の大切さを理解し、友達は大切であること、友達とは仲良くすることが大切であることを理解している。また、学習を通して、友達と仲良くなるためには、「大丈夫?」「一緒に遊ぼう」「ありがとう」などの声を掛けるとよいことも理解している(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 1

場面①と②を提示し、自分がみそさざいだったらどうするか¹の行為と理由を問う。

「友情、信頼」についての道徳的価値を自分とのかかわりで考えさせ、問いをもたせるための働き掛けである。

教材文を読み聞かせる。読み聞かせるのは、みそさざいが「どうしようかな」と迷う場面までである。

教材の内容を知った子どもは、「迷う気持ち分かるな」「私だったらどちらに行くかな」と考える。心の中で考えていることを表出させるために、迷っている気持ちに共感できるかを問う。子どもは、みそさざいの迷いに共感し、迷ったことのある自分の経験を想起する。このような子どもに「自分がみそさざいだったら、どちらに行くか。それはどうしてか」と問い挙手させる。その後、理由を問う。「友情、信頼」についての道徳的価値を自分とのかかわりで考えさせ、「見方・考え方」を引き出し、問いをもたせるためである。子どもは「友情、信頼」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりするという「見方・考え方」を働かせて理由を考える。理由として「誕生日は1年に1度しかないから」「先にした約束を守った方がよいから」などと挙げる。子どもは、これまでの自分の経験や自分とは異なる友達の考えから「どんなことを考えて、どうすればよいのだろう」と考える。このような姿を問いをもった姿と見なす。

働き掛け 2

場面③と④を提示し、みそさざいが取った行為の善し悪しを問い、やまがらに思いを向け、行動することの大切さを問う。

学習課題に対する解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

「どんなことを考えて、どうすればよいのだろうか」と考えている子どもは、場面③で、みそさざいがやまがらの家に行かなかったことを知り「ひどい」と考える。子どもが考えていたことと異なるからである。しかし、場面④でみそさざいがやまがらの家に行ったことを知ると「よかった」と安心する。このような子どもに「みそさざいは、やまがらの家に行った。このことをどう思うか」と問う。みそさざいが取った行為を評価させることで、「友情、信頼」についての道徳的価値に焦点付けさせるためである。このとき、ネームプレートを使って個々の考えを可視化させる(右図)。多くの子どもはやまがらの家に行ったことはよいと評価し「やまがらは友達だから一人だとかわいそうだ」「行かないでやまがらに寂しい思いをさせるよりも、行った方が喜んでくれる」などと考える。そこで「どうしてよいと思うのか」と問い、ワークシートに記述させる。その後、対話でできるだけたくさん考えるように指示する。

対話では、3人から4人を1グループとし「たいせつなこと(ルール)」の基で、「かんがえるためのかぎ」を使って話し合わせる。多様な視点と多様な考えを引き出すためである。子どもは「友情、信頼」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりするという「見方・考え方」を働かせて「悲しい思いをしている友達がいたら一緒にいてあげた方がよいから」「悲しいときに一緒にいてもらえると嬉しいから」などと話す。グループでの対話後に、話したことを全体で共有させる。その際に、経験を基に考えたことや多面的・多角的に考えたことを確認し、友達が困っていたり悲しい思いをしたりしていることに思いを向け、困っている友達がいたら助けてあげることが大切であることの理解を深める(①知識・技能)。個々の理解が深まったことを可視化させるために、納得した考えをワークシートに書き加えるように指示する。



★たいせつなこと★

- ・みんなできめたことについてはなす。
- ・人をバカにするようなことはいわない。
- ・しぶんのおもったことをけいけんしたことといっしょにかんがえる。
- ・さいごまで、ともだちのはなしをきく。
- ・かんがえるためのかぎをつかってはなす。

かんがえるための かぎ

- Q. それって どういうこと?
- Q. なぜ? どうして?
- Q. そういうこと あったの?
- Q. たとえば?

働き掛け 3

みそさざいの行為の納得できないことを問い、どうすればよかったのか²の行為と理由を問う。

解決の方法を考えさせるための働き掛けである。

みそさざいの行為を評価したときに、足りない、よくないと考えている子どもの発言を取り上げる。よりよい行為に導くためである。子どもは「どうせ行くならもっと早く行った方がよい」「一人で行くのではなくてみんなで行った方がよい」と考える。このような子どもに「みそさざいは、どうしたらよかったのか。そのように考えるのは、なぜか」と問う。子どもは「音楽会の練習は、いつでもできるから今日はやめて、みんなでお誕生日のお祝いをすればよい。そうすれば、やまがらはもっと嬉しいと思う」とよりよい行為を考える(②思考力・判断力・表現力)。理由には、「友情、信頼」についての道徳的価値が含まれている。

働き掛け 4

自分がみそさざいだったらどうするか³の行為と理由を問う。

根拠をもってよりよい行為を判断させるための働き掛けである。

解決の方法を得た子どもに、働き掛け1と同様の場面について自分がみそさざいだったらどうするか³の行為と理由とを問いワークシートに記述させる。様々な解決の方法から根拠を明確にして選択・判断させるためである。このとき、子どもはこれまでの学習で考えたことを生かして自分

に合う考えを選択する。そして「お誕生会に行く。でも、音楽会の練習をする日だから、みんなに言って音楽会の練習は別の日にしようと言う。みんなでお祝いをした方がやまがらが喜ぶと思うから」(②思考力・判断力・表現力, ③態度)と記述する。こうして、「友情, 信頼」についての道徳的価値の大切さを理解し, よりよい行為を判断する子ども(Cn)となる。

働き掛け5

学習を通して, 納得した考えを問う。

発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

課題解決した子どもに, 学習を通して納得した考えを問い, ワークシートに記述させる。子どもは課題解決した過程を振り返り, 友達と話し合ったことで「友情, 信頼」に対する自分の考えが付加されたことに気付く。そして, 本主題の学びにおいて, どのような資質・能力を発揮したのかを自覚する。

7 本時の構想

(1) 本時のねらい (本時 1 / 1時間目)

音楽会の練習に行っているうぐいすの家を抜け出し, 一人ぼっちになっているやまがらの誕生会に行くみそさざいの姿を通して, 困っている友達に思いを向け, 助けることがなぜ大切なのかを考えさせることで, 「友情, 信頼」の道徳的価値の理解を深めるとともに, みそさざいのよりよい行為について考えさせる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け								
<p>1 みそさざいは, どうしたらよいのだろうという学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会に行くか, 音楽会の練習に行くかで迷っているんだ。 ・確かに迷うな。 ・分かります。どちらも友達だから, どちらに行ったらよいか迷います。 ・前に, 二人の友達に「遊ぼう」って誘われて, どちらと遊ぼうか迷ったことがあるからです。 ・そういうのある。ぼくは, 「一緒に帰ろう」って二人に言われて困ったな。 ・お誕生会に行きます。だって, 誕生会は1年に1回しかない大切な日で, 今日しかないからです。 ・音楽会の練習に行きます。先に約束した方を守らなければいけないからです。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どんなことを考えて, どうすればよいのだろう。</p> </div>	<p>場面①と②を提示し, 自分がみそさざいだったらどうするかとの行為と理由を問う。 【働き掛け1】</p> <p>○説明「今日のお話は, 『二つのことり』というお話です。お話に出てくるのは, みそさざいさん, やまがらさん, うぐいすさんという鳥と, 小鳥たちです。みんな友達です。読みます」</p> <p>※登場人物の関係を伝えた後に, 挿絵を示しながら, 場面①と②を再現構成法で読み聞かせる。</p> <p>○説明「みそさざいさんは, お誕生会に行こうか, 音楽会の練習に行こうか迷っています」</p> <p>○発問「みそさざいさんが迷っている気持ち分かりますか。どうして分かるのですか」</p> <p>○発問「自分がみそさざいさんだったら, どちらに行きますか。それは, どうしてですか」</p> <p>※どちらに行くか, 挙手させる。理由は, 数名の子どもを指名する。</p>								
<p>2 学習課題を解決するための見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなうぐいすさんの家に行っちゃったのか。どうしてだろう。 ・ひどいよ。誕生日なのに一人ぼっちになっちゃうよ。 ・やっぱり, 寂しいよりもきれいなところの方がいいよね。ごちそうもあるし。 ・やまがらさんが, かわいそう。 <ul style="list-style-type: none"> ・よいと思います。 ・よいことだとは思いますが, だったらもう少し早く行ったらよかったと思います。 ・よいとは思いますが, こっそり抜け出したことがあまりよくないと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・やまがらさんのことを思って家に行ったことは, どうしてよいと思いますか。 ・悲しんでいる友達をそのままにしておくことはよくないことだからです。 ・どういうこと? 	<p>場面③と④を提示し, みそさざいが取った行為の善し悪しを問い, やまがらに思いを向け, 行動することの大切さを問う。 【働き掛け2】</p> <p>※再現構成法で, 教材を最後まで読み聞かせる。</p> <p>○発問「みそさざいさんは, やまがらさんの家に行きました。このことをどう思いますか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">よい よくない</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">ネームプレート</td> <td style="width: 25%;">ネームプレート</td> <td style="width: 25%;">ネームプレート</td> <td style="width: 25%;">ネームプレート</td> </tr> <tr> <td>ネームプレート</td> <td>ネームプレート</td> <td>ネームプレート</td> <td>ネームプレート</td> </tr> </table> </div> <p>※一人一人の立場を明確にさせるために, ネームプレートを貼らせる。</p> <p>○説明「みんなは, みそさざいさんがやまがらさんのことを思って家に行ったことはよいと思っているのですね」</p> <p>○発問「やまがらさんのことを思って家に行ったことは, どうしてよいと思うのですか」</p>	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート
ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート						
ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート	ネームプレート						

- ・友達が悲しいなって思っているときには、助けてあげることがよいと思います。だって、嬉しいからです。
- ・そういうことって、あったの？
- ・休み時間に、一人で絵を描いていたときに「一緒に遊ぼう」と言ってもらって嬉しかったことがあります。
- ・それ、分かる気がします。
- ・一人でいるのは寂しいから、一緒にいてあげようとするのはよいことです。
- ・確かに。一人ぼっちは悲しいです。

★協働性

- ・ぼくたちのグループも同じことを考えました。
- ・確かに。友達が嬉しいなと思うことをすると、自分も嬉しくなるな。

- ・友達が寂しいかなと思ったときに、近くに行くとあげると友達は喜ぶと思うから。
- ・悲しい気持ちになっている友達を、そのままにしないで助けてあげることがよいと思うから。

★道徳科①

3 課題解決の具体的な行為を考える。

- ・音楽会の練習に行かないで、お誕生日のお祝いに行けばよかったと思います。
- ・でも、練習は約束していたことだから…。
- ・音楽会の練習をして、みんなでお誕生日のお祝いに行けば、やまがらさんはもっと喜ぶと思います。
- ・やまがらさんに、遅れていくことを伝えて練習が終わったらみんなで行けばよいと思います。そうすれば、やまがらさんは寂しい思いをしなくてよいと思うからです。
- ・音楽会の練習は、いつでもできるから今日はやめて、みんなでお誕生日のお祝いをすればよいと思います。そうすれば、やまがらさんはもっと嬉しいと思うからです。

★道徳科②

4 どうしたらよいか根拠をもって判断する。

- ・お誕生会に行きます。でも、音楽会の練習をする日だから、みんなに言って音楽会の練習は別の日にしようと言います。みんなでお祝いをした方がやまがらさんが喜ぶと思うからです。

★道徳科②③


5 学習を振り返る。

- ・○○さんが言った、困っている友達がいたら助けてあげると嬉しいという考えがなるほどなと思いました。ぼくは、思い付きませんでした。
- ・○○さんが言った、誕生会は、やっぱり大事でお祝いすると友達も喜んでくれるという考えがすごいと思いました。

※考えをワークシートに記述させる。
 ※3人程度のグループで対話(5分程度)する活動を設定し、理由をできるだけたくさん考えるように指示する。

★たいせつなこと★

- ・みんなできめたことについてはなす。
- ・人をバカにするようなことはいわない。
- ・じぶんのおもったことをけいけんしたことといっしょにかんがえる。
- ・さいごまで、ともだちのはなしをきく。
- ・かんがえるためのかぎをつかってはなす。



かんがえるための かぎ

Q. それって どういうこと？

Q. なぜ？ どうして？

Q. そういうこと あったの？

Q. たとえば？

※対話で話し合ったことを発表させる。その際に「同じように思うか」「なるほどと思うか」と働き掛けることで、経験を引き出せるようにする。

※対話を通して納得できる考えをワークシートに記述させる。

※ここで押さえたい道徳的価値の理解。

- ・困っていたり悲しい思いをしたりしている友達に思いを向けることが大切であること
- ・困っている友達がいたら助けてあげることが大切であること

みそさざいの行為の納得できないことを問い、どうすればよかったのか行為と理由を問う。 【働き掛け3】

○説明「みそさざいさんがしたことはよいことだけれども、もう少しこうしたらいいなと思うということを書いてた人もいましたね」

○発問「みそさざいさんは、どうしたらよかったのでしょうか。そのように考えるのはどうしてですか」

- ※子どもから引き出したい行為
- ・こっそり抜け出さずみんなに言ってから行く。
- ・みんなのことも誘って行く。
- ・最初から誕生会に行く。→音楽会の練習は後日にしようみんなに提案する。

自分がみそさざいだったらどうするか行為と理由を問う。 【働き掛け4】

○発問「もう一度聞きます。みそさざいさんが迷っているところですか。自分がみそさざいさんだったら、どうしますか。理由も書きましょう」

※ワークシートに記述させる。

学習を通して、納得した考えを問う。 【働き掛け5】

○発問「今日の勉強で、『なるほど』『すごいな』と思ったのは、誰のどのような考えでしたか」

(3) 評価

- ・働き掛け2において、対話の前と後で考えが付加されているかをワークシートの記述から評価する。(道徳的価値の理解の評価)
- ・働き掛け4で、「友情、信頼」についての道徳的価値の理解を基に、よりよい行為を判断したかをワークシートの記述から評価する。(道徳的判断力の評価)